

意見交換テーマ

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う、各島における今後の対応について

趣旨

新型コロナウイルス感染症の感染再拡大に伴う陽性患者の急激な増加により、本土においても医療提供体制がひっ迫している。（資料2）

そのため、新型コロナ陽性患者の入院調整が困難な状況となり、以下のような事例が発生している。

- 軽症患者は、宿泊療養のためのホテル入所が困難な状況となり、自宅療養者が増加している
- 中等症患者の中には、すぐには入院できず、入院待ちのため、自宅療養となる場合がある
- 救急車を呼んでも、受入先病院の選定に時間を要する事例が発生している 等

これまで、島しょにおいては、陽性患者が発生した場合には、本土に搬送し、入院治療を行ってきたが、本土の医療提供体制の状況によっては、これまでと同じ運用ではなく、重症化リスクに応じた対応が求められる等の事態が、想定される。

そこで、こうした状況に直面した場合に備え、各島における課題や対応方法について幅広く意見交換を行い、不測の事態に備えていく。

第1回調整会議意見まとめ

○新型コロナウイルス感染拡大に備え、地域医療提供体制の確保に向けた継続的な取組が必要

- ・一律の入院病床の振り分けではなく、病院の規模や機能に応じた役割分担と病床の振り分けが必要
- ・行政を中心として医師会や病院を含めた、関係者間の緊密な情報共有が必要

各圏域から出された共通の課題

- ①軽症患者が重症化した場合の受入れ先(転院)の確保【入口(上り)戦略】
- ②重症患者の軽快後の受入れ先(転院)の確保【出口(下り)戦略】
- ③各医療機関の患者受入状況の迅速な把握・情報共有手段の確立【連携方法】

第2回調整会議で出された主な意見

①軽症患者が重症化した場合の受入れ先(転院)の確保【入口(上り)戦略】

- ・重症患者受入れ病床の不足
- ・マンパワー不足のため重症患者受入れ病床の更なる確保が困難

②重症患者の軽快後の受入れ先(転院)の確保【出口(下り)戦略】

- ・重症患者は軽快後も転院先がなく、院内での転棟で対応
- ・ポストコロナ患者受入れの心理的ハードルは高く、PCR陰性等の確認が必要
- ・高齢者の入院が長期化し、ADLの低下によって自宅に帰せない方が増加

③各医療機関の患者受入状況の迅速な把握・情報共有手段の確立【連携方法】

- ・行政、医師会、病院等からなる定期的なWebを活用した連絡会の開催
- ・各病院の入院患者の状況について、データ共有環境の整備が必要
- ・介護事業所と病院、診療所等とが情報連携できるように、都や医師会による積極的な情報開示が必要